

4月11日、新しいメンバーで初めて開催された淀川部会を傍聴して感じたことを述べさせていただきます。まず、今までにも意見を述べさせていただいたことがありますが、これらの意見が委員の方々に届いているとは思えないのです。私たちは何らかの形で委員会に反映していただけるもの信じて、勇気をふるって意見を書かせていただいています。でも、会議ごとに配布されている膨大な資料の中の1枚ということなら、殆どの委員の目にもとまっていけないのではないのでしょうか？

淀川流域委員会が、本当に住民の意見に耳を傾ける気があるのなら、委員会に届いた意見を、会議の事前打ち合わせの時にでも声を出して読み上げていただくことは出来ないもののでしょうか？。

ご検討下さい。

同じく11日の会議において、谷内委員のご意見だったと思います。「鴨川に精通した委員がいない」とお嘆きでした。嘉田由紀子氏、田中真澄氏の両氏は、共に鴨川流域懇談会(京都府)の委員を務められるなど、鴨川のことに最も詳しい委員と判断して間違いないと思います。また、鴨川を所管している京都府河川課からも、淀川部会にはご出席があります。ここで申し上げたいのは、もう少し委員の先生方同士の交流を図っていただき、その上で住民の声も併せて淀川を守っていただきたいと思います。